



七月晦の夜より病
あけき泄痢度あけき

物いふ力もなき

手足張あき

あし枯ら

河つりくこの中ま

去東京より馳くる

膳所より西原大津

本節し別大州

平田の尊由つる原

よあを惟存とる

くる新あき

片あまゆる

そでより心神の

散乱なるまりぬ

不淨なるま

くて遊々招く

おこの酒はけりるあ

壁をぬる

命運をわる色お年々入ける

心弱おゆるあ

病の病もつた枯樹をうけゆる

すく枯樹をさるゆめ心よせ

あきれははるき執る

よる死んぬのを切る思

八月の夜

眼

く

葉

あ



Handwritten vertical text on the right side of the page.

